

浪漫が町並みを創り出す

会津若松の町並み

東京大学大学院
都市工学専攻教授 西村幸夫

戊辰戦争のあと

会津若松というと白虎隊の悲劇を連想する。まちなみも戊辰戦争で大きな被害を受けてしまった。そのため、西国の歴史都市のように古い町並みが軒を連ねて残っているという風情では、残念ながらも近代以前にまでさかのぼることのできる古い町家や武家屋敷もごくわずかしかない。鶴ヶ城も現在のものは1965年に再建された博物館施設である。

しかし、だからといって会津若松に歴史を感じることができないかというと、そんなことはない。むしろ会津の誇り高き歴史を随所に感じることもできるのだ。それはなぜか。ひとつには、歴史の変転を生き延びてきた造り酒屋や海産物問屋などの大店が明治以降に勇壮な店構えの商店や居宅を建設あるいは再建し、まちの至る所に見られるからである。それらの多くは現在でも店舗として健在であるか、別のお店として転用されており、中へ入ることができる。博物館や



改修されたJR七日町駅舎
会津のアンテナショップも併設



“城下町回廊の賑わい”をめざす
周遊バス「ハイカラさん」号

ギャラリーなどになっているものも少なくない。こうしたお店を訪れながら地区を巡るといった回遊性のあるまちとなっているからである。早くも1971年にはこうした老舗の連合体として「会津復古会」というこれまた復古調の名前の組織が立ち上がっている。この会の特色は、伝統的な町家建築を活かすことを軸に活動が組み立てられていることにある。今から35年前に、面や線として残った町家群から成る町並みのほかに、「点のネットワーク」という新しいものの見方を提起したのである。

町並み再生のための努力

一方では、失われた町並みを少しずつ回復するための努力も積み重ねられている。そのトーンダウンは何となくも七日町だろう。今でも町家地区の中心部には、大町四つ角と呼ばれるへそがあるが、七日町はこの大町四つ角から西に伸びる商店街で、かつての繁華街だった。しかし多くの中心商店街と同様にここも次第にシャッター街に変貌しつつあった。

1990年代前半から町内のUターン組を中心に、七日町通りの町並みの再評価がおこなわれ、サッシや看板で面影は消えかけてはいるものの、本体の建物は十分伝統的なものであること、これをもとに大正浪漫のまちづくりを進めていくという気運が高まっていった。1994年には、「七日町通りまちなみ協議会」が設立されている。

の合同庁舎や県立の総合病院など各種の公共施設が勢揃いしたお城の前の古くからの東西の幹線道路などを見ると、道路パターンという歴史遺産がいかに都市に風格を与えているか得心がいく。

さらに町人地は同じく格子状の道路形状ながら、四つ辻はほとんどどこも東西路の軸線がわずかにずれて、意図的に食い違いの十字路ばかりをつくっていることがいまでもよく読みとれる。食い違った四つ角が江戸時代からの辻で、整形の辻は新しい道路によって明治以降にできたものだとして分かれるのだ。つまり、駅からすぐに南下する大町通りは古く、そのすぐ東隣の中央通り（国道118号線）は新しいということが辻のかたちからすぐわかる。大町通りの南に続くのが野口英世がやけどした左手の手術をしたという病院（現在は喫茶店になっている）が残る野口英世青春通りである。

大町四つ角という核を起点に白河街道、下野街道（会津西街道）、二本松街道、米沢街道、越後街道のいわゆる会津五街道が四方に伸びているのである。

浪漫の多様な発言、それがまちに活力を与え、魅力的な町並みを生み出していく原動力ともなる。その底にはみずからの故郷に対する自負と誇りがある。そうした心意気を若松の人たちは浪漫と表現し、それが明治以降、会津若松の町並みを創り出してきたのだ。

そして何よりも、会津若松にはこうした町家の創意工夫をしつかりと受け止めることのできる近世以来の都市構造がある。城郭を取り囲む武家地と主としてその北側に配された町人地、さらにその外側を取り囲むように立ち並ぶ寺院群、そしてこの近世の城下町に北側に設けられた会津若松駅の絶妙な配置。いかに戦禍を被ることも、こうした都市の構造まで破壊し尽くすことはできなかった。そして残された都市の骨組みに新しい衣をまとわせるように、まちの魅力が徐々に再生してきたのである。

武家地の通りは当初から東西路で10〜12間（約18〜22）、南北路で8〜10間（約14〜18）という広幅員の堂々とした道路であり、現在でもお城から北上する北出丸大通りや裁判所や検察庁、図書館や博物館、国や県



西村 幸夫
にしむら ゆきお

東京大学工学部都市工学科卒業 同大学院修了
明治大学助手 アジア工科大学助教授
MIT客員研究員 コロンビア大学客員研究員
などを経て現職
専門は、都市計画、都市保全計画、市民のまちづくり論など
世界文化遺産の評価等を行う世界遺産記念協会（ICOMOS）前副会長 文化審議会専門委員
東京都景観審議会会長 「たかはし町並み建築デザイン賞」審査委員長など
著書「都市保全計画」町並みまちづくり物語」など多数



藩祖 蒲生氏郷がもうらじと の出身地
近江に因んだ歴史的な町名サイン



純粋に幕藩体制を生き抜いた会津松平藩のシンボル 再現された鶴ヶ城天守閣



妙法寺の塀 ケヤキは自然景観指定緑地 美しい会津若松景観賞 つくる賞、受賞 馬場本町



七日町の町並みを代表する海産物の渋川問屋 歴史的景観指定建造物



野口英世青春通り 戊辰戦争の史跡も残る福西本店 歴史的景観指定建造物



大町四つ角に近い洋風建造物群 左 白木屋漆器店 右 滝谷建設工業（旧郡山橋本銀行若松支店）



末廣酒造嘉永蔵 歴史的景観指定建造物 / 美しい会津若松景観賞 まもる賞、受賞 日新町



町並みに配慮した新しい料理店「山葵」 美しい会津若松景観賞 特別賞、受賞 上町



地域の誇りを見せる会津若松市役所 市内20数ヶ所の建物がライトアップされる